

A

モルヒネはどのように使いますか？

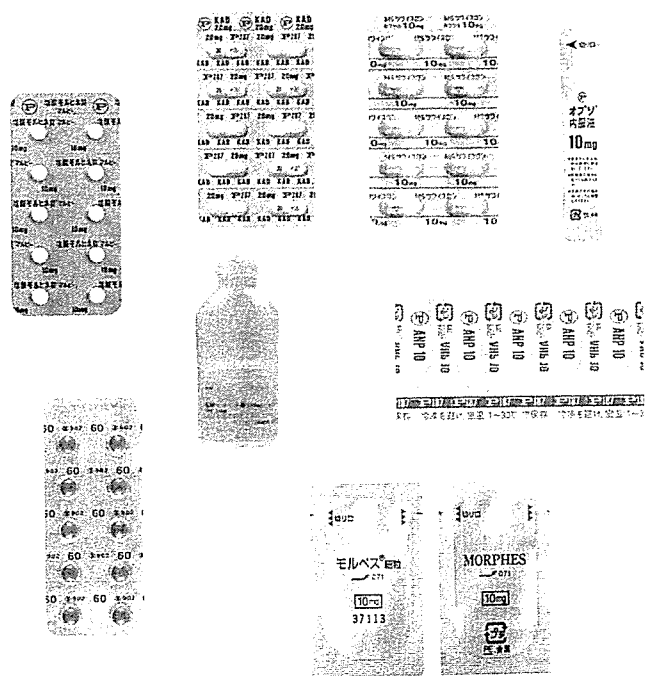
□からのむモルヒネには粉薬、細粒、水薬、錠剤、カプセルなど多くの薬のタイプがあります。粉薬、オプソ<sup>®</sup>内服液のような水薬、一部の錠剤は早く効きますが、効いている時間が短いので4時間ごとにのむのが原則です。このように早く効きますが、効いている時間が短い薬を速放剤といえます。

モルヒネの薬の中にはゆっくり長く効くタイプのもの（徐放剤）もあります。硫酸モルヒネ徐放剤であるMSコンチン<sup>®</sup>錠やMSツイスロン<sup>®</sup>カプセルは12時間ごとに、カディアン<sup>®</sup>カプセルは24時間ごとにのむのが原則です。これらの徐放剤はかみ砕いたり、つぶしたりしてのむと薬が急激に吸収され、思わぬ副作用が出る場合があります。危険ですので絶対におやめください。もしも、MSコンチン<sup>®</sup>錠やMSツイスロン<sup>®</sup>カプセルがのみにくいときには同じように12時間ごとにこのむ薬としてモルペス<sup>®</sup>細粒がありますので担当医にご相談ください。徐放性のモルヒネはからだに入ってから腸の中で徐々に溶けるので効果が長く続きます。またおしりから入れる薬として塩酸モルヒネ

坐剤（アンペック<sup>®</sup>坐剤）があります。アンペック<sup>®</sup>坐剤は8時間ごとにおしりから入れるのが原則です。

最近はこちらの薬の特徴を活かして2種類の薬を使用することもあります。例えば、MSコンチン<sup>®</sup>錠などの徐放剤を使っているときに突然の痛みが現れた場合は、すぐに効くモルヒネの水薬や粉薬を使います。

その他の方法での使い方については38頁のQ&A 46をお読みください。

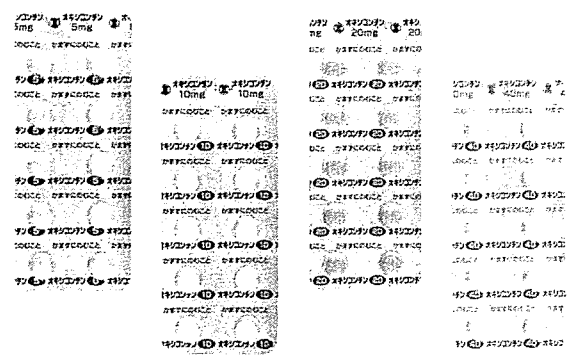


\*MSコンチン<sup>®</sup>錠やアンペック<sup>®</sup>坐剤などについている<sup>®</sup>は商品名のときに使用するマークです。

# 11 ① オキシシロドンはどのように使いますか？

A

塩酸オキシシロドンという麻薬を成分としたオキシシロン<sup>®</sup>錠があります。オキシシロン<sup>®</sup>錠は1日2回、12時間ごとに時間を決めてのみます。オキシシロン<sup>®</sup>錠はからだに入ってから腸の中で徐々に溶ける徐放剤<sup>じゅうほうざい</sup>です。かみ砕いたり、つぶしたりしてのむと薬が急激に吸収され、思わぬ副作用が出る場合があります。危険ですので絶対におやめください。



徐放剤<sup>じゅうほうざい</sup>のオキシシロン<sup>®</sup>錠を使用中に突然の強い痛みが現れた場合にはすぐに効くモルヒネの水薬<sup>みずぐすり</sup>などを追加して使います。なお、大便中に錠剤<sup>じょうざい</sup>の「抜け殻」がでることがありますが、薬の成分はすでに吸収されているので心配いりません。あわてて新しい薬を追加してのまないようにしましょう。

# 12 ① フェンタニルの貼り薬はどのように使いますか？

A

フェンタニルという麻薬を成分とした貼り薬のデュロテップ<sup>®</sup>パッチがあります。フェンタニルが皮ふからゆっくり吸収され、痛い場所に直接貼らなくても痛みを取り除くことができます。デュロテップ<sup>®</sup>パッチは3日間ごとに時間を決めて貼り替えます。

なお、デュロテップ<sup>®</sup>パッチ使用中の突然の強い痛みには、すぐに効くモルヒネの水薬<sup>みずぐすり</sup>などを追加して使います。詳しくは別冊をご覧ください。



# 13 ① モルヒネはいつ頃から病気の治療に使われているのですか？

A

明治時代の俳人・歌人、正岡子規も脊椎<sup>せきつい</sup>力<sup>りき</sup>エスという病気で、からだ中がひどく痛んでいました。その

痛みの治療のために、子規は1年6ヶ月以上にわたってモルヒネをのんでいました。モルヒネをのんで痛みを軽くしながら、俳句や和歌を詠んだり、文章を書いたりしていたのです。このように、モルヒネは使用方法を守れば、ふつうに生活できる安全な薬です。モルヒネは19世紀よりもずっと昔から使われていた薬なのです。

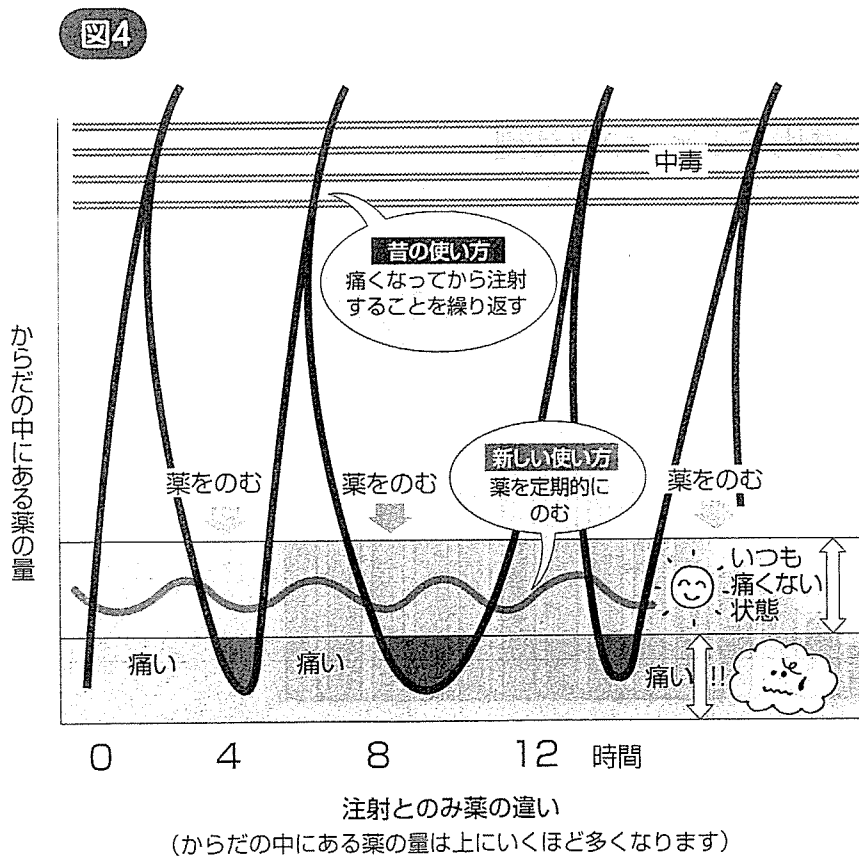
また、現在でも多くの患者さんが、大きな手術の後の痛みや心臓発作しんぞうほっさくのときの痛みしんぞうほっさくにモルヒネを必要としているのです。今では、モルヒネを上手に使うようになったので、手術を受けた患者さんは、手術をしたための痛みをほとんど感じないですむようになりました。

14 **Q**  
 モルヒネと聞けば、麻薬中毒を思い浮かべますが、「使用方法を守れば、大丈夫」とは、具体的にどんなことでしょうか？

**A**  
 モルヒネは痛みをとめる効果が最も強い薬です。あなたの痛みの治療のために担当医が決めた量と使う時間を守って、使っただければ、麻薬中毒にはなりません。

15 **Q**  
 なぜ担当医が決めたとおりにモルヒネを使うと、麻薬中毒にならないのですか？昔と比べて、なにが進歩したのですか？

**A**  
 昔は、痛くて我慢がまんできなくなってから、大量のモルヒネを一気に注射してしまいましたので、ちょうどお酒の



一気飲みに似た状態でした（20頁図4）。痛くなつてからモルヒネを注射することを繰り返す方法ですと、からだの中のモルヒネの量が痛みをとめるために必要な量よりはるかに多くなります。このからだの中の多いモルヒネの量が脳細胞のうぎょうぼうに悪い影響を与えると、麻薬中毒になつてしまうのです。

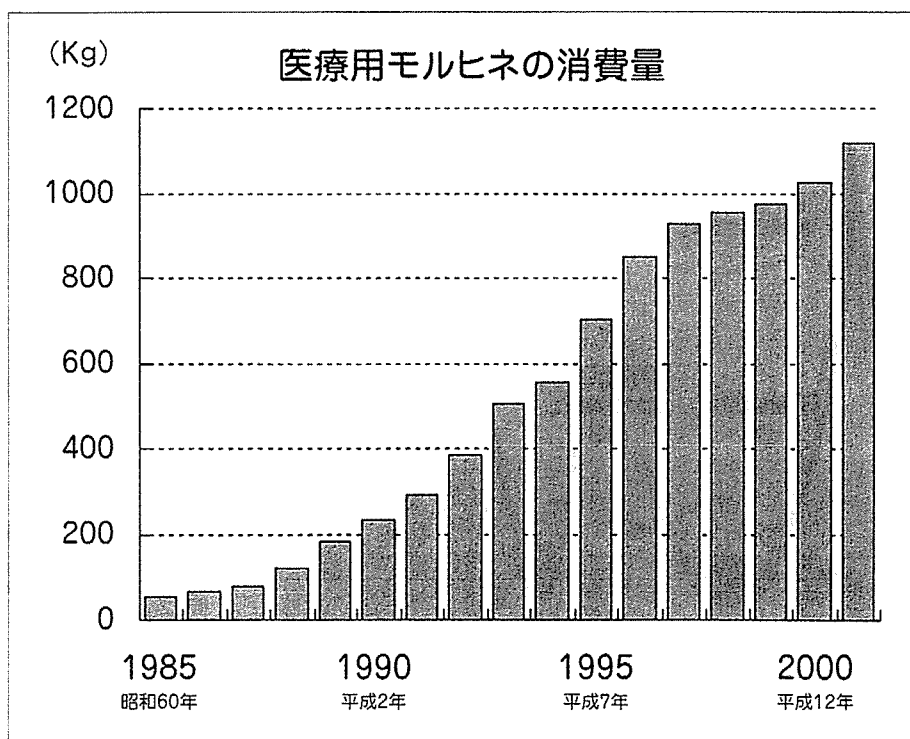
現在の使い方は、いつも痛みのない状態を続けていくことを目標に、薬の効き目が切れて次の痛みが起つてくる前に薬を使う方法です。つまり定期的な使用をポイントとしています。時間ごとにのむので、モルヒネが一度にからだの中に吸収されないのです。

麻薬（コカイン、ヘロインなど）の乱用が社会的な問題になっていますが、乱用というのは健康な人が痛みがないのに、多めの薬を用いることです。この場合はからだに悪い影響を与えます。

痛みが強い患者さんにモルヒネを使うときには、その患者さんの痛みを取り除くのに必要な量とのみ方を担当医が決めて説明しています。担当医が説明したとおりへのめば、モルヒネを「痛み止めの薬」として長期間にわたつて安全に使えるのです。

事実を示しましょう。日本で痛みをとるために使つたモルヒネは、昭和61年65 kg、昭和63年121 kg、平成2

年232 kg、平成4年383 kg、平成6年555 kg、平成8年852 kg、平成13年1117 kgと急速に増加していますが、麻薬中毒患者は増えていません。



「モルヒネなどの痛み止め」はどれくらいの時間効きますか？

薬が効いている時間は薬の成分や薬の形（のみ薬、坐剤、貼り薬など）によっても異なりますが、大きく分けて、早く効きますが効き目が短いタイプと効いてくるまでに時間はかかりますが効き目が長く続くタイプがあります。これらを痛みの状況に応じて使います。

どの形を使うにしても痛み止めの効き目が切れる前に、定期的に次回分の薬を使うようにして、痛みのない状態が続くようにします。それでもおきてしまった突然の痛みには早く効くタイプの薬を追加して痛みをすべにります。モルヒネについてはQ&A17、オキシコドンについてはQ&A18、フェンタニルについてはQ&A19、にまとめましたので、そちらもご覧ください。また薬が効いている時間をまとめた表が下にあります。

くすりの成分	くすりの形	くすりの名前	効き始めるまでの時間	効き目が続く時間
モルヒネ	粉薬	モルヒネの粉薬	10分	約4時間
	水薬	オプソ®内服液、薬局で調製した水薬	10分	約4時間
	錠剤	MSコンチン®錠	1.5～2時間	8～12時間
	カプセル	MSツワイスロン®カプセル	1.5～2時間	8～12時間
	細粒	モルベス®細粒	1.5～2時間	8～12時間
	顆粒	カディアン®スティック	1～2時間	24時間
	カプセル	カディアン®カプセル	1～2時間	24時間
	坐剤	アンバック®坐剤	約30分	8～12時間
オキシコドン	錠剤	オキシコンチン®錠	1時間以内	12時間
フェンタニル	貼り薬	デュロテップ®パッチ	12～48時間	72時間

※表中の時間はおよその目安です

17<sup>Q</sup> モルヒネはどのくらいの時間、痛み止めとして効きますか？

A 早く効くタイプとしては塩酸モルヒネの水薬（オプソ<sup>®</sup>）内服液と薬局で調製した水薬（オピオイド<sup>®</sup>）や粉薬、一部の錠剤（錠剤<sup>®</sup>）があります。これは10分ほどで効き始め、効き目が4時間ぐらいい続きます。

長く効くタイプとしてはMSコンチン<sup>®</sup>錠やMSツワイスロン<sup>®</sup>カプセル、モルペス<sup>®</sup>細粒があります。これは効き始めるまでに1.5〜2時間ぐらいいかかりますが、効き目が8〜12時間続きます。常に痛みのない状態を保てるように12時間ごと（人によっては8時間ごと）に時間を決めて薬をのみます。また1日1回のむことで効果が24時間続くカディアン<sup>®</sup>カプセルもあります。これらはからだの中でゆっくり溶け出し、効果が長く続くことから徐放剤（徐放剤<sup>®</sup>）と呼ばれます。

おしりから入れるアンペック<sup>®</sup>坐剤は効き始めるまでに30分ほどかかり、効き目が8〜12時間続きます。このため普通は8時間ごと（人によっては12時間ごと）に使用します。

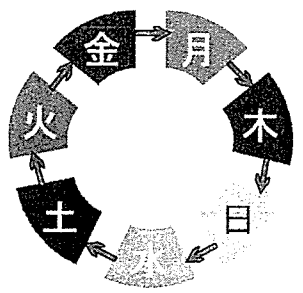
18<sup>Q</sup> オキシコドン<sup>®</sup>はどのくらいの時間、痛み止めとして効きますか？

A 長く効くタイプとしてオキシコドン<sup>®</sup>錠があります。効き始めるまでに1時間ほどかかりますが、効き目は12時間続きます。常に痛みのない状態を保てるように12時間ごとに時間を決めて薬をのみます。

19<sup>Q</sup> フェンタニルの貼り薬（デュロテップ<sup>®</sup>パッチ）はどのくらいの時間、痛み止めとして効きますか？

A 皮ふに貼って使用するフェンタニルの貼り薬（デュロテップ<sup>®</sup>パッチ）は効いている時間がとても長く、3日間（72時間）ごとに貼り替えて使う徐放剤（徐放剤<sup>®</sup>）です。

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17



貼り替える日が分かるよう、カレンダーなどに印をつけておきましょう。3日間（72時間）ごとに貼り替えます。  
例）月曜日に貼ったら木曜日に貼り替えます。その次は日曜日です。

20<sup>Q</sup>

「モルヒネなどの痛み止め」は強い「痛み止めの薬」です。ですから、副作用の種類が多かったり、副作用が強いのではないのでしょうか？

A

強い痛み止めのモルヒネ、オキシコドン、フェンタニルでも、担当医が決められた量と薬を使う時間を守って正しく使う限り、副作用が多くなることはありません。副作用の内容と対策は29・30頁Q&A 31・32をお読みください。

21<sup>Q</sup>

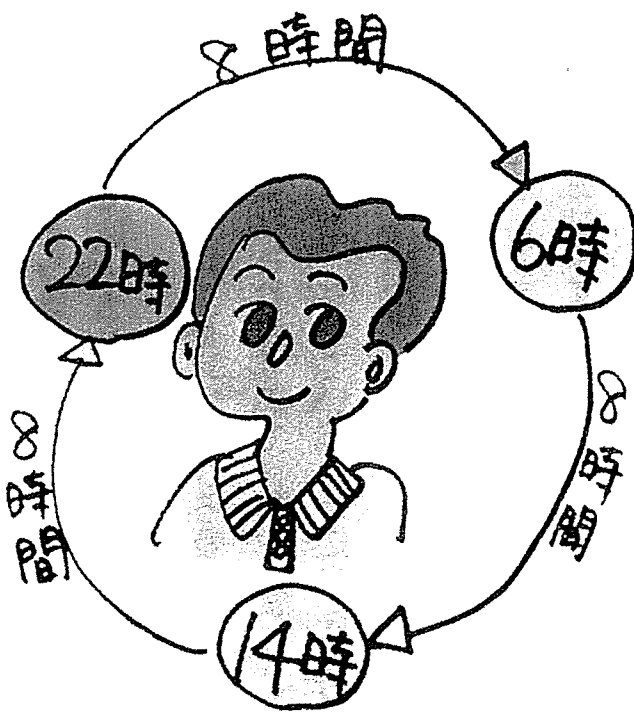
MSコンチン<sup>®</sup>錠を8時間ごとに（1日3回）のむようにいわれましたが、毎食後にのむ方がのみ忘れがないと思いますが？

A

最初に「痛み止めの薬」を使い始める時間はご自分で決めていただいてよいのですが、その後は8時間ごとにのんでください。時間ごとにとのむと、痛みを和らげるのに必要な量の薬がいつもからだの中にあるので、痛みのない状態が続きます（11頁図1参照）。

毎食後にのむようにすると、夕食後から翌日の朝食後までの間隔が長くなるため、夜明け頃に痛みが出てきます。

薬をのんだら、すぐに服薬確認表（8頁参照）に書

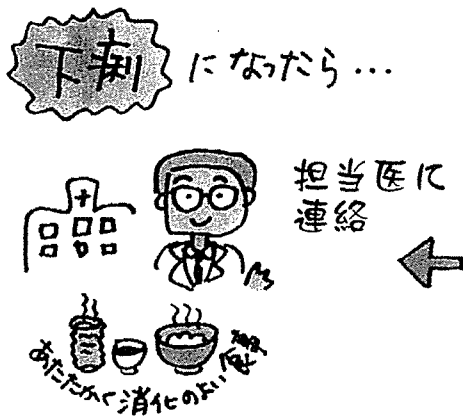


きとめるようにすれば、薬のみ忘れをチェックできると思います。のみ忘れに気がついた場合には、すぐに1回分の薬をのんでください。分からないことがありましたら、担当医または薬剤部（病院の薬局）に連絡してお尋ねください。

上手に痛みを取り除くために、薬をのんだ時間と量、痛みの程度、からだの具合、行動範囲などを服薬確認表に書きとめて次に病院にいらっしゃったときに担当医に渡してください。

MSコンチン<sup>®</sup>錠と一緒に出された便秘を予防するための下剤をのんでいたら、下痢気味になりました。新しくもらったMSコンチン<sup>®</sup>錠は12時間ごとにもよつに言われましたが、下痢をしている場合でも、12時間ごとでよいのでしょうか？

A 1日に4〜5回も下痢をしているときは、MSコンチン<sup>®</sup>錠の痛み止めの作用が12時間続かないこともありますので、担当医に連絡してください。脱水状態にならないように、温かい飲物をのんだり、消化の良いものを食べてください。



一般的に薬は胃を荒らすと言われていますが、モルヒネやオキシコドンはおなかがすいているときにもよいのでしょうか？

A モルヒネやオキシコドンは胃から吸収されずに、腸にいってから吸収されますので、胃を荒らすことはありません。おなかがすいているときにもよいでも、胃を悪くするようなことはありません。

しかし、便秘になると、食欲がなくなってきたり、胃がもたれたりしてきますので、胃を悪くしたように感じることもあります。ですから、モルヒネやオキシコドンを使う場合には、モルヒネやオキシコドンを使い始める前と同じようなお通じがあるように、下剤も一緒にのんでください。





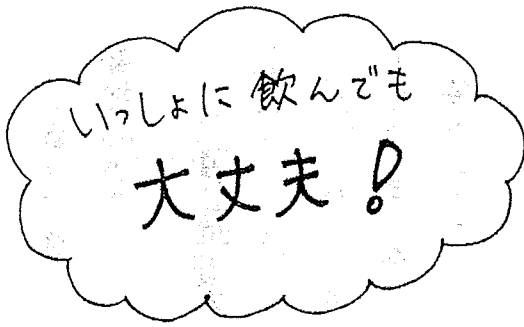
24 <sup>Q</sup>

かぜをひいたので、近くの病院にいったら、かぜ薬をもらってきました。「モルヒネなどの痛み止め」と一緒にかぜ薬、あるいは他の薬をのんでもよいのでしょうか？

A

同時に出された他の薬と一緒にのんでも、また「モルヒネなどの痛み止め」をかぜ薬や他の薬と一緒にのんでもかまいません。

また、モルヒネやオキシコドンをお茶やコーヒーあるいは牛乳と一緒にのんでもかまいませんから、好みの飲物でのんでください。



25 <sup>Q</sup>

「モルヒネなどの痛み止め」を使っているのですが、痛みは全くありません。少しお酒を飲んでみたいのですが、よろしいのでしょうか？

A

お酒を飲んでもかまいませんが、「モルヒネなどの痛み止め」を使っていますと、お酒のまわりが早くなることが考えられます。お酒をお飲みにかけて少しずつ飲み、お酒の量も控えめにしたほうがよいでしょう。



26 <sup>Q</sup>

「モルヒネなどの痛み止め」を使っているのですが、車を運転しても大丈夫でしょうか？また、夫婦生活はどうでしょうか？

A

「モルヒネなどの痛み止め」を使うと、眠くなることがありますので、車の運転はやめた方がよいでしょう。夫婦生活に関しては何も制限はありません。

「モルヒネなどの痛み止め」を使い始めると、使っているうちに量が増え、中毒のようになったり、また使い続けていると、癖になったり、効かなくなることはありませんか？

A 担当医が決めた量と時間を守って「モルヒネなどの痛み止め」を使っていれば、痛みのある患者さんが「モルヒネなどの痛み止め」を使っても、心配していらっしやるようなことは全くありません。

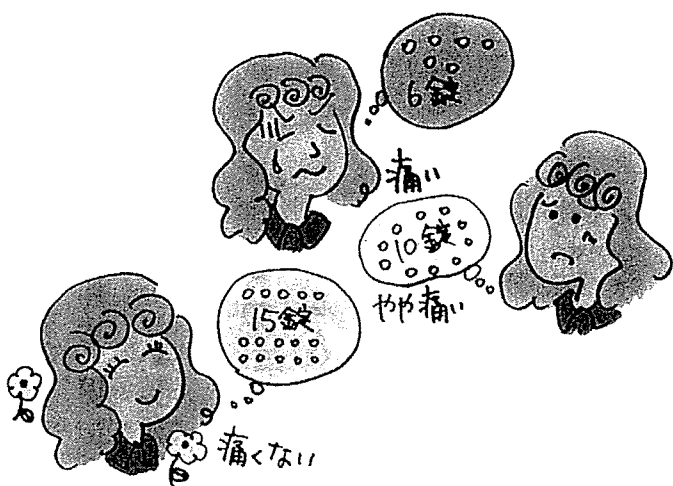
もっと強い痛みが出たときでも、効かなくなることはありません。痛みが強くなると、痛みに合わせて「モルヒネなどの痛み止め」の量も増えるので、癖になったような気持ちになるかもしれませんが、痛みが強くなったので、痛みをとめるための「モルヒネなどの痛み止め」の量が多くなっただけなのです。



痛いと言っていたら、「モルヒネなどの痛み止め」の量がだんだん増えてきました。どこまで量を増やせるのですか？

A お酒に強い方と弱い方がいらっしやるように、「モルヒネなどの痛み止め」の効き具合も個人差があります。

例えばMSコンチン® 2錠で痛みがとれる方もいらっしやいますし、10錠のんでも痛みが十分にとれず、15錠にしたら痛みがなくなるといっこともあります。「モルヒネなどの痛み止め」の副作用がない限り、痛みがなくなるまで量を増やしても、安全に使えるのです。



今までに一番多くモルヒネをのんでいた方の1日量は粉薬こなぐすりで5000mgを越えていません。MSコンチン® 30mg錠に換算すると、160錠以上にもなります。また、アンペック® 20mg坐剤ざざいなら、250個にもなります。

「モルヒネなどの痛み止め」を使い続けると、からだが強ったり、いのちを縮めたりすることはありませんか？

A

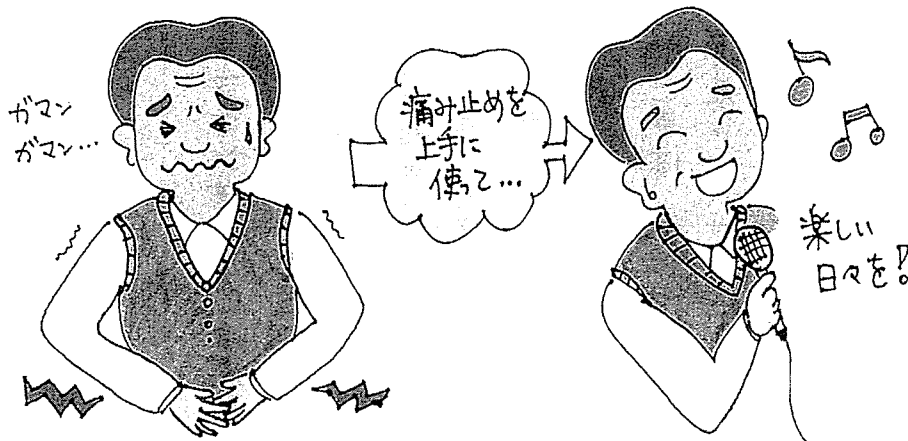
痛みが続くと、からだも心も疲れきってしまいます。痛みを我慢がまんしている方よりも「モルヒネなどの痛み止め」を使って痛みがない方のほうが、元気に生活していくことができるのです。痛みがなければ、よく眠ることができるようにもなり、したがって体力も回復しますから、生き生きしてくるのです。いのちを縮めるようなことは決してありません。



「モルヒネなどの痛み止め」は強い「痛み止めの薬」と言われましたが、「モルヒネなどの痛み止め」でも痛みがとれなくなったら困るので、痛みを我慢がまんしていたのですが？

A

今使っている量の「モルヒネなどの痛み止め」が効かなくなったときには少し量を増やすと、また痛みがなくなりますので、痛みを我慢がまんする必要はありません。痛みの原因によっては「モルヒネなどの痛み止め」が効きにくい痛みの中にもあります。痛みをとめる方法はたくさんありますので、担当医とよく相談してみてください。

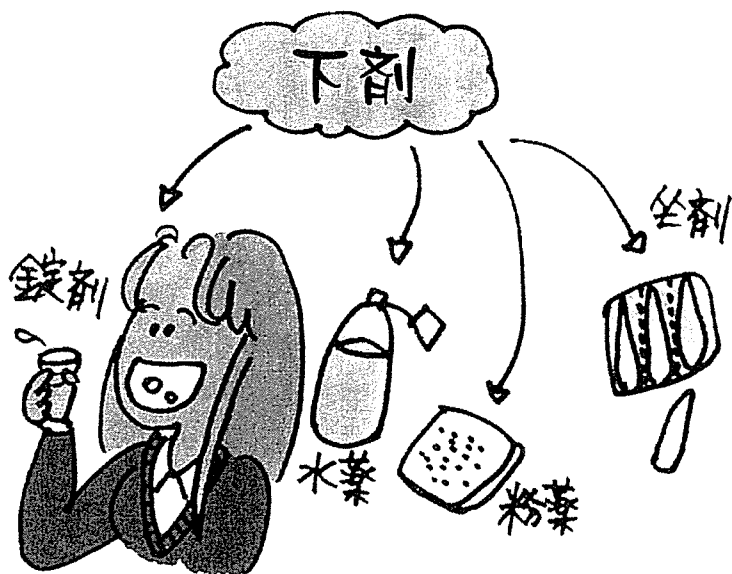


痛みがなくなっていくのは大変うれしいのですが、薬には副作用がありますよね。モルヒネ、オキシコドン、フェンタニルを使うと、どんな副作用が出ますか？

A

モルヒネ、オキシコドン、フェンタニルを使い始めた最初のころに吐き気とねむけを訴える方がいらつしやいますが、「吐き気止めの薬」を一緒にのむと、吐き気はなくなります。「吐き気止めの薬」が必要なのは初めの2〜3週間の間だけです。その後は「吐き気止めの薬」をのまなくても、吐き気はなくなります。

モルヒネ、オキシコドン、フェンタニルを使うと、痛みはとれてくるが、眠くて仕方がない



と感ずる方も確かにいらつしやいます。その原因としては、痛くて眠れなかった日が続いていたことが多いようです。4〜5日続けてモルヒネ、オキシコドン、フェンタニルを使っているうちに痛みがなくなり、ねむけも消えます。

モルヒネ、オキシコドン、フェンタニルには痛みを抑える以外にもいろいろな作用があり、病気の治療に利用されています。モルヒネですと痛みを抑える作用以外にも咳を軽くする作用や腸の動きを抑える作用（下痢をとめる作用）があります。例えば痔の手術後の少しの間お通じをとめるために、昔からモルヒネを使ってきました。痛みをとめるためにモルヒネ、オキシコドン、フェンタニルを使ったときは、副作用として便秘が出てくることが多いわけです。

モルヒネ、オキシコドン、フェンタニルを長い間使っている間、痛みをとめる作用がなくなると同じように、モルヒネ、オキシコドン、フェンタニルを使っている間は腸の動きを抑える作用がずっと続きます。

モルヒネ、オキシコドン、フェンタニルを使っている間、下剤（お通じをよくする薬で、錠剤、水薬、粉薬、坐剤などがあります）と一緒に使えば、便秘にならないようにできます。モルヒネ、オキシコドン、フェン

タニルと一緒に下剤も使用してください。今までと同じようにお通じがあることが大切です。担当医や看護師、薬剤師と相談しながら、ご自分で下剤の適切な（自分にあつた）量を探しましょう。便秘の詳しい対策については43・44頁をお読みください。

モルヒネからオキシコドンやフェンタニルに切り換えることにより、吐き気が楽になったり、下剤の量が減ったりする方もいらっしゃいます。担当医や看護師、薬剤師と相談してご自分にあつた「痛み止めの薬」を探しましょう。

大切なことは自分のからだの具合をどんなことでも担当医に伝えることです。服薬確認表（8頁参照）に書きとめたものを担当医や看護師、薬剤師にお見せください。

その他にも副作用がありませんか？「モルヒネなどの痛み止め」で幻覚がでることがあると聞いていますが、大丈夫でしょうか？

「モルヒネなどの痛み止め」を使った場合に幻覚が現れることがときにはありますが、痛みを取り除くのにふさわしい量の「モルヒネなどの痛み止め」を使えば、

幻覚はめつたに現れません。

幻覚は「モルヒネなどの痛み止め」だけによるものではなく、病状の変化や痛み、便秘、臥床（ベッドで休んでいること）、高熱などのからだの苦しみ、およびそれらによる心の苦しみ、不安や暗い気分などの心理的要因でも現れます。もし、幻覚が現れた場合には、担当医に連絡してください。

その他、めずらしい副作用ですが、口渇（のどがかわくこと）、めまい、かゆみなどが出る方もまれにはいらっしゃいますので、疑問がありましたら、遠慮なくさうず担当医に相談してください。



長期間「モルヒネなどの痛み止め」を使っていると、  
肝臓、腎臓や脳に新たな副作用が出てくることはあ  
りませんか？

A

そのようなことは全くありません。長期間の使用でも、  
新たな副作用が出てくることはありませんので、心配  
いりません。最近「モルヒネなどの痛み止め」を使  
いながら、長期間にわたって痛みのない生活を送って  
いらっしゃる方が非常に多くなっています。

例えば、交通事故や戦争または腫瘍の手術で手足を  
なくした方が、その失った手足（実際には存在しない）  
が痛む話を聞いたこ  
とがあるでしょう。

そのような痛みは、  
あたかも失った手足  
があるように感じ、  
痛むので、幻肢痛と  
呼ばれています。幻  
肢痛に悩まされて、  
勤めに出ることがで  
きない方々が、モル  
ヒネと同じような薬



A

を定期的にもみ続けた結果、長期間にわたり、痛みが  
なく、社会生活を楽しむことができるようになり、ま  
た副作用は全くなかったとの報告が医学の論文にあり  
ました。

失った手足があたかもあるように痛むということは、  
理解に苦しむことでしょう。このように、痛みの原因  
をはっきりさせることが難しいこともあります。痛  
みの原因が分からなくても、安全に痛みを取り除くこ  
とができるようになります。お分かりにならないこ  
とがありましたら、ぜひ担当医にお尋ねください。

「モルヒネなどの痛み止め」を使うようになると、  
いよいよダメかと思っていました。仕事もできる  
のですか？

会社の勤務も、自営の仕事も可能ですが、担当医と  
具体的に相談してください。36頁Q&A42に書いてあ  
りますように、「モルヒネなどの痛み止め」を使いな  
がら、海外旅行もできるのです。

実際に、「モルヒネなどの痛み止め」を使いながら、  
1時間以上の通勤時間をかけ、会社に勤務し、また仕  
事で外国へ何回も出張されている方もいらっしゃいます。

A

「痛み止めの薬」は病気そのものを治しているのではないから、「モルヒネなどの痛み止め」を使って常に痛みがない状態にしてしまうと、化学療法や放射線治療がどのくらい効いたのかが分からなくなってしまうことはないでしょうか？

痛みがあると、眠ることができない日が続いて、食欲がなくなり、からだ全体が弱ってしまいます。痛みの原因を取り除くための放射線治療を受けるにしても、痛みがあるために治療に必要な体位（最も良い姿勢）がとれないこともあります。

また、手術前の患者さんが痛みのためにベッドに寝てばかりいると、手足の筋肉の力が弱くなってしまいます。手術後の回復も悪くなります。



痛みを我慢していても、患者さんにとって得になることは何もないのです。痛みがなくなれば、よく眠ることができるし、よく食べることができるようにもなり、よくしゃべることができ、楽しい毎日になることでしょう。

治療や検査に痛みがないことが分かって、お子さんでも進んで、検査や治療を受けってくれることから、痛みがないということがどんなに大切なことであるかを分かっていただけたらと思います。

「モルヒネなどの痛み止め」を続けて使っていても、痛みの原因となった病気の経過の判定に困ることはありません。担当医は注意深く観察していますので、治療の効果の判定には困りません。大切なことは、患者さんが痛みやからだの調子（体調）など、どんなことでも、遠慮なさらずに正確に担当医に伝えてくださることです。

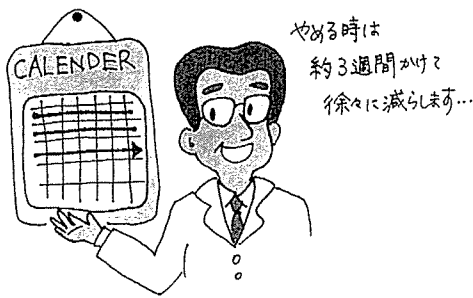


「モルヒネなどの痛み止め」を長期間にわたって使っても、痛みの原因がなくなったときなどには、「モルヒネなどの痛み止め」をやめることができますか？

A

急にやめるのではなく、少しずつ量を減らしていくやり方で、「モルヒネなどの痛み止め」を約3週間で安全にやめることができます。実際に、手術、放射線治療、化学療法などがよく効いて、痛みの原因がなくなった患者さんのなかにはモルヒネの必要がなくなり、やめた方がいらっしやいますが、副作用も後遺症も全く出ていません。

例えば、がんは痛みが出るために見つかることもあります。手術でがんを取り除いてしまえば、痛みがなくなる訳ですが、手術を安全かつ正確に行なうためには、いろいろと検査をする必要があります。手術前の期間に痛みを我慢する必要はありません。「モルヒネなどの痛み止め」で痛みをとめて、手術後に少しずつ量を減らしていく方法で、安全にやめることができます。



自分の判断で「モルヒネなどの痛み止め」を急にやめてもよいのでしょうか？

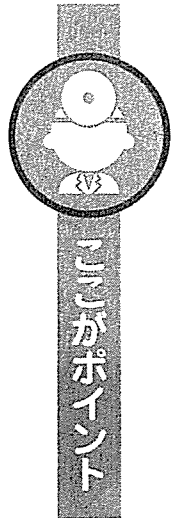
A

いろいろな病気に広く、一般的に使われている「ステロイドホルモン」や「血圧を下げる薬」なども急に使うのをやめれば、生命に危険な症状が出てきます。

「モルヒネなどの痛み止め」を急に使うのをやめれば、汗をかいたり、下痢がとまらないなどの退薬症状（昔は禁断症状といっていました）が現れます。しかし、痛みがおさまってきてから、担当医と相談しながら、少しずつ「モルヒネなどの痛み止め」の量を減らしていけば、薬を減らしたことによる症状は絶対に現れません。必ず、担当医と相談してください。







外来通院中で、「モルヒネなどの痛み止め」を使っている患者さんが、かぜをひいたりして、予約した日に病院にいらっしやることができなくなった場合には、電話で担当医と相談してください。

# 38 <sup>Q</sup>

外来でもらったモルヒネやオキシコドン、フェンタニルをほかの人の歯痛や腹痛に使ってもよいでしょうか。また、フェンタニルの貼り薬（デュロテップ<sup>®</sup>パッチ）はしつぷ薬の代りに使えますか？

## A

病院でお渡ししている薬は、その患者さんのからだの具合や痛みの強さに合わせて、担当医が薬の種類や量を決めています。ご家族の歯痛や腹痛に使うことは、歯痛や腹痛が治らないばかりか、危険なことにもつながりますので、絶対にご家族の痛みには使わないでください。このような使い方は法律で禁止されていることも知っておいてください。また、フェンタニルの貼



り薬をしつぷ薬の代りに使うことも絶対におやめください。

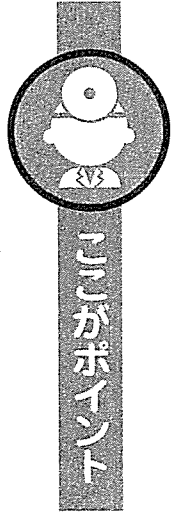
39

冷蔵庫に入れておいた水薬（モルヒネ）を子供が間違っているでしまったのですが、どうすればよいのでしょうか？

A

できるだけ早く、近くの医療機関を受診してください。その時にのんだ薬の内容が分かるものを持参してください。お子さまがのんでしまった薬の量や時間などを、できるだけ詳しく説明してください。また、このようなことが起こらないように、薬の保管場所には普段から、十分注意してください。

分からないことがありましたら遠慮なく担当医または薬剤部へご連絡ください。



モルヒネの水薬に限らず、薬はお子さまの手が届かないところにしまっておきましょう。

40

しっふ薬と間違えてフェンタニルの貼り薬（デュロテップ® パッチ）をほかの人が使ってしまったのですが、どうすればよいのでしょうか？

A

間違えて貼ったフェンタニルの貼り薬をすぐにはがして、近くの医療機関を受診してください。その時にはがしたフェンタニルの貼り薬をお持ちになり、何時に貼り、何時にはがしたかを説明してください。また、担当医または薬剤部へもご連絡ください。



処方の変更になったり、別の病院に入院したなどの理由で、余ってしまった「モルヒネなどの痛み止め」はどうしたらよいのですか？

A

「モルヒネなどの痛み止め」をしまっておいて、本人以外の方に使うことは、法律（麻薬及び向精神薬取締法）によって行なってはいけないことになっています。

必要がなくなり、残ってしまった「モルヒネなどの痛み止め」は、他に利

用できないように廃

棄（捨てること）す

る必要があります。

廃棄には手続きが必

要なため、病院や薬

局に持ってきていた

だければ、残った「モ

ルヒネなどの痛み止

め」の廃棄をお手伝

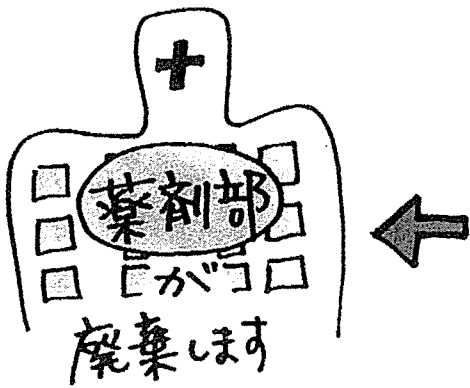
いいたします。

患者さんの痛みを

取り除くためのモル

ヒネの使い方を簡単

あまた  
モルヒネは...?

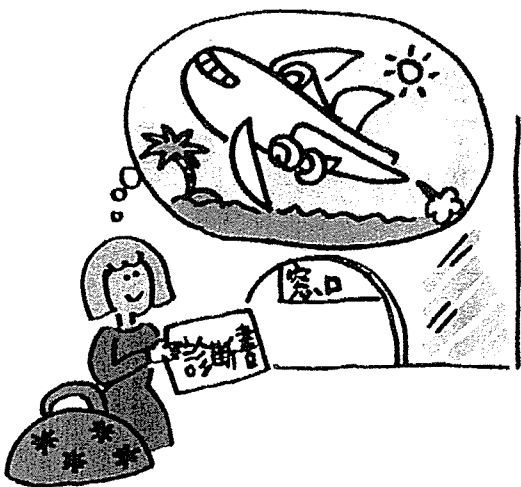


に、しかも便利にするための法律改正が平成2年度に行なわれました。例えば、痛み治療のためにモルヒネを使っている患者さんも、国の許可を受ければ、モルヒネを使いながら海外旅行ができるようになります（Q & A 42 参照）。厚生労働省や医療機関、医療従事者は患者さんの痛みを取り除くことに一生懸命にしています。分からないことがありましたら、担当医にどんなことでもお問い合わせください。

A

「モルヒネなどの痛み止め」を使うようになると、旅行なんてとんでもないと思っていました。海外旅行もできるのですか？自分で使っている「モルヒネなどの痛み止め」の携帯許可をもらうためには、具体的にどうすればよいのですか？

ご自分の痛みの治療に必要な「モルヒネなどの痛み止め」の携帯許可をもらう



麻薬携帯輸入（輸出）許可申請書提出先（管轄する都道府県名）

- 北海道厚生局麻薬取締部（北海道）  
〒060-0808 札幌市北区北八条西2-1-1 札幌第1合同庁舎  
TEL 011-726-3131/FAX 011-709-8063

---

- 東北厚生局麻薬取締部（青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島）  
〒980-0014 仙台市青葉区本町3-2-23 仙台第2合同庁舎  
TEL 022-221-3701/FAX 022-221-3713

---

- 関東信越厚生局麻薬取締部（茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、山梨、長野、新潟）  
〒153-0061 東京都目黒区中目黒2-4-14  
TEL 03-3719-8111/FAX 03-3719-8116

---

- 東海北陸厚生局麻薬取締部（静岡、愛知、三重、岐阜、富山、石川）  
〒460-0001 名古屋市中区三の丸2-5-1 名古屋合同庁舎2号館  
TEL 052-951-6911/FAX 052-951-6876

---

- 近畿厚生局麻薬取締部（福井、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山）  
〒540-0008 大阪市中央区大手前4-1-76 大阪合同庁舎第4号館  
TEL 06-6949-6336/FAX 06-6949-6339

---

- 中国四国厚生局麻薬取締部（鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知）  
〒730-0012 広島市中区上八丁堀6-30 広島合同庁舎4号館  
TEL 082-227-9011/FAX 082-227-9174

---

- 四国厚生支局麻薬取締部（徳島、香川、愛媛、高知）  
〒760-0017 高松市番町1-10-6 高松第1地方合同庁舎  
TEL 087-831-6811/FAX 087-831-8596

---

- 九州厚生局麻薬取締部（福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄）  
〒812-0013 福岡市博多区博多駅東2-10-7 福岡第2合同庁舎  
TEL 092-472-2331/FAX 092-451-4539

ための窓口は、携帯許可をもらう方の住所を管轄する  
 地方厚生（支）局麻薬取締部です。医師の診断書（病名、  
 薬の名前と量などが明記されています）を添えて申請  
 します。申請書には、旅行先の国名、旅行期間などを  
 書く必要があります。申請する人は本人ではなくても、

A

43<sup>Q</sup>

MSコンチン<sup>®</sup>錠をのみ込むことがつらくなった時は、  
 どうすればよいのでしょうか？

モルヒネにはMSコンチン<sup>®</sup>錠だけではなく、おし  
 りから入れる坐剤やのみやすい水薬、粒の細かい粉薬  
 などがありますので、錠剤がのめない場合にもこれら  
 の薬に切り換えることで痛みのない状態を続けること  
 ができます。また、皮かに貼るフェンタニルの貼り薬（テ  
 ユロテップ<sup>®</sup>パッチ）もありますので、口から薬をの  
 めなくなった場合でも貼り薬により痛みをとめること  
 ができます。

早めに担当医と相談していただければ、一番合った  
 痛みをとめる方法を考えます。もし、強い痛みがある  
 にもかかわらず、急に薬がのめなくなった場合には、  
 すぐ担当医に連絡して相談してください。

ご家族の方や旅行業者の担当の人でもかまいません。  
 詳しくは担当医あるいは薬剤部にお尋ねください。  
 ただし、時間的に、ゆとりを持って（出発予定の1  
 ケ月以上前）申請するのがよいでしょう。